

進捗状況の概要（１ページ以内）

（１）事業実施のための体制整備

徳島大学内に「地方創生人材育成執行本部（執行本部）」と「地方創生人材育成推進機構」を設置し、事業の円滑な執行について万全を期すとともに、本事業の「協議の場」となる「コンソーシアムとくしま」に「創生人材教育開発委員会」を設置し、委員会の下に、具体的な活動内容を検討する部門別 WG を置くとともに、これらの WG を統括する「創生人材教育開発委員会 WG」を設置して、毎月、定期的に会議を開催するなど、迅速な事業運営を図っている。

また、組織的なプログラム運営を目的に設置した COC+R 事業事務局に、3 名の地方創生コーディネーターと 2 名の事務職員を配置し、事業推進に万全を期している。

（２）教育プログラムの整備・改善・充実

令和 4 年度には、従前の経営課題型の実践型インターンシップに地域の課題解決をテーマとする「地域課題型」を追加するとともに、経団連の産学協議会基準に準拠した「就業体験型インターンシップ」、県出身の県外大学生等を対象とする「U I J インターンシップ（徳島県委託事業）」、地域で豊かな人生を送るための知恵を学ぶ「ライフデザイン」等の科目を新設し、令和 5 年度には、四国大学において、女性活躍推進、ジェンダーギャップ解消等に焦点をおいた科目「ダイバーシティ・キャリアデザイン」を新設した。令和 6 年度には、次年度からの本格導入に向けて、県内企業数社が企画する合宿型プログラム「成長支援型インターンシップ」を試行するなど、事業終了後の継続も考慮した教育プログラムの改善・充実を図っている。また、参加校学生が無理なく教育プログラムを履修できるよう、参加校においてプログラム科目を拡充しており、プログラム科目数は当初の 36 科目から 62 科目と 2 倍近くに増加した。科目の改善や科目数の増加が履修学生の増加に繋がっており、本教育プログラムは、質、量ともに当初計画を大きく超えている。

（３）地域クリエイター・マイレージポイントシステムの整備・運用

地域定着意識を醸成し、教育カリキュラムの継続学習を促進するため、「地域クリエイター・マイレージポイントシステム」を導入しており、令和 6 年 3 月には、獲得ポイントによる徳島県知事、コンソーシアムとくしま会長からの表彰状授与式を行い、計 15 名の履修生を表彰した。

（４）遠隔参加型授業システムの構築

コロナ禍における遠隔授業対応とともに、県外学生・社会人・高校生等の非正規履修生の受講に対応するため、対面及び遠隔参加のハイブリッド型の ICT 授業システムを、創成学習スタジオ（理工学部共通講義棟 6 階）とフューチャーセンター（地域創生・国際交流会館 5 階）に構築し、実践型インターンシップ等のプログラム授業や各種関連会議等に活用している。

（５）キャリアサポートシステムの構築

徳島大学と NTT 西日本徳島支店とによる「ICT 利活用による地域活性化連携協定」を締結し、地域への若者定着のための学生への進路指導サポートや人材の地域定着と育成に向けた企業サポートを目指し、企業側の経費負担により、企業の経営風土データベース（企業風土 DB）や、学生の価値観診断ツールを基盤としたキャリアサポートシステムを開発している。企業風土 DB は NTT 西日本内でビジネス化等が検討されているが、本事業としては、開発した学生の価値観診断ツールを用い、令和 6 年度に就職活動に入る履修候補生を対象に価値観診断のためのアンケートを配布し、個人毎の診断シートと相性企業タイプを返却しており、令和 6 年の就職内定後に価値観診断有用性の確認調査を実施することで、本システムの有効性を確認することとしている。

（６）広報活動

事業実施内容の周知のために対面による開催を計画していた成果公表フォーラム（R4 年度事業）の開催方法を見直し、より多くの階層への情報提供が可能な Web 版の成果公開フォーラムを開設することとし、新入生、高校生・県外生、保護者、参加企業の 4 つの階層を対象とした「コンソーシアムとくしま Open フォーラム」を令和 5 年 3 月に公開した。令和 6 年度は、企業向けインターンシップセミナーの動画を追加するなど、コンテンツの充実を図った。参加校への周知依頼をはじめ、大学入学時のオリエンテーションや関連授業科目開始時等の機会を捉えた学生への周知、インターンシップ参画案内時の企業等への周知、また、徳島県教育委員会を通じた県内高等学校への周知、また、徳島県を通じて県外の高等教育機関にも広報を行っている。

（７）参加校における取組

ダイバーシティ・キャリアデザイン科目の開発・導入（四国大学）、専門外資格取得サポート（徳島文理大学）、インターンシップ参加に向けた講演会、企業研究会の開催（徳島工業短期大学）、地元企業インターンシップ先の開拓（阿南工業高等専門学校）等、各校の特性に応じた取組を実施している。